

長崎 検定

一級 さん

Vol.44

先人に畏敬の念を抱いて 辻田 俊也さん

長崎歴史文化観光検定の最難関を突破した1級ホルダー！

その卓越した識見には、なにやら一言ありそうです。

ざっくばらんに寄稿願いました。

「わりたちも みんな出て見ろ今夜こそ 彦山や
まの月はよかばい」

「彦山の 上から出づる月はよか こげん月は
えつとなかばい」

私は彦山にかかる満月が真正面に見える家に育ちました。縁側から見る月は子供心にも趣深いものでした。ですが、成人しても太田南畝おわたなんぼなどもちろん知りません。「昔の長崎？ようわからん」全く興味なし。ところが2015年春に全国放送の人気テレビ番組で、歴史を踏まえた長崎の町歩きが紹介されました。長崎での視聴率はさぞや高かったと思います。見ていて「おいはなんも知らんやった！」ということ、検定の勉強を始めました。

2016年に3級と2級に合格して翌年から1級受験を始め、2019年は3回目のトライです。合格に初回3点足りず、2回目4点足りませんでした。覚悟ができていないと痛感。で、基本的に勉強の仕方を見直しました。テキストとその解説は隅々まで理解するようにしました。三年分積み重ねた一級まとめノートに加え、今回は自分で穴埋め例題を大量に作り解いてみました。短文

論述も想定問題を何十問も作り自分なりに解答をまとめ暗記しました。過去問分析も十分にしました。仕事と検定の勉強、理系から文系へ頭の切り替えがとにかく難しかったです。

私は山行が趣味です。郷土史の勉強も相通するものがあります。登山のスキルが上がる楽しさと、郷土史の理解が進む楽しみは似ています。決して他人と競争する必要はない。合格不合格は一応の線引き。どこまで理解してもこれで満足ということはない。まだまだ未熟者です。それと変な話ですが、年代数字に妙な執着があります。一例としてAD1634年。出島着工、長崎くんちの始まり、眼鏡橋架橋の年です。鎖国、キリシタン対策、街道整備が進展した非常に意味のある年だと認識しています。さらに、約4年間の勉強中に最も衝撃を受けた参考書物は「復元！江戸時代の長崎」です。私の高校の先輩、長崎大学でも同じ学部だった方の著作です。長崎市街地の古地図と現代地図を緻密に重ね合わせています。歴史文化博物館の床にも描いてあるのでご存知かと。初めてこの対比地図を見た時には驚嘆しました。うまく説明できないのですが、頭の中で考えが飛躍し

「1級合格しないと郷土の先人に失礼！」と思いました。

ここ数年、長崎町歩きテレビ番組は地元のトレンドです。これらは興味保持に有効です。ただ長崎検定一級受験にはその先の理解が必要です。一級クリアは学問として郷土史理解を深めるその登竜門だと思います。

今後は、一次資料を理解できるよう古文書を少しでも読めるようになりたい。時間が取れるのですが。あと英会話を長年習っているのですが、今後知り合いの英語圏の方々にも街案内ができれば良いなと思います。最後に、町歩きに時々付き合ってもらい勉強中は生暖かく放っておいてくれた妻に感謝です。たまに家にいても家事を全く手伝わず部屋に籠る夫にさぞ腹が立っただろうなと思います。



【プロフィール】

1961年長崎市彦見町（旧矢の平）生まれ 長与町在住 病院勤務医師 高所恐怖症ですが登山を好みます。合格は北アルプス高難度の山をソロで登れたような心持ちです。